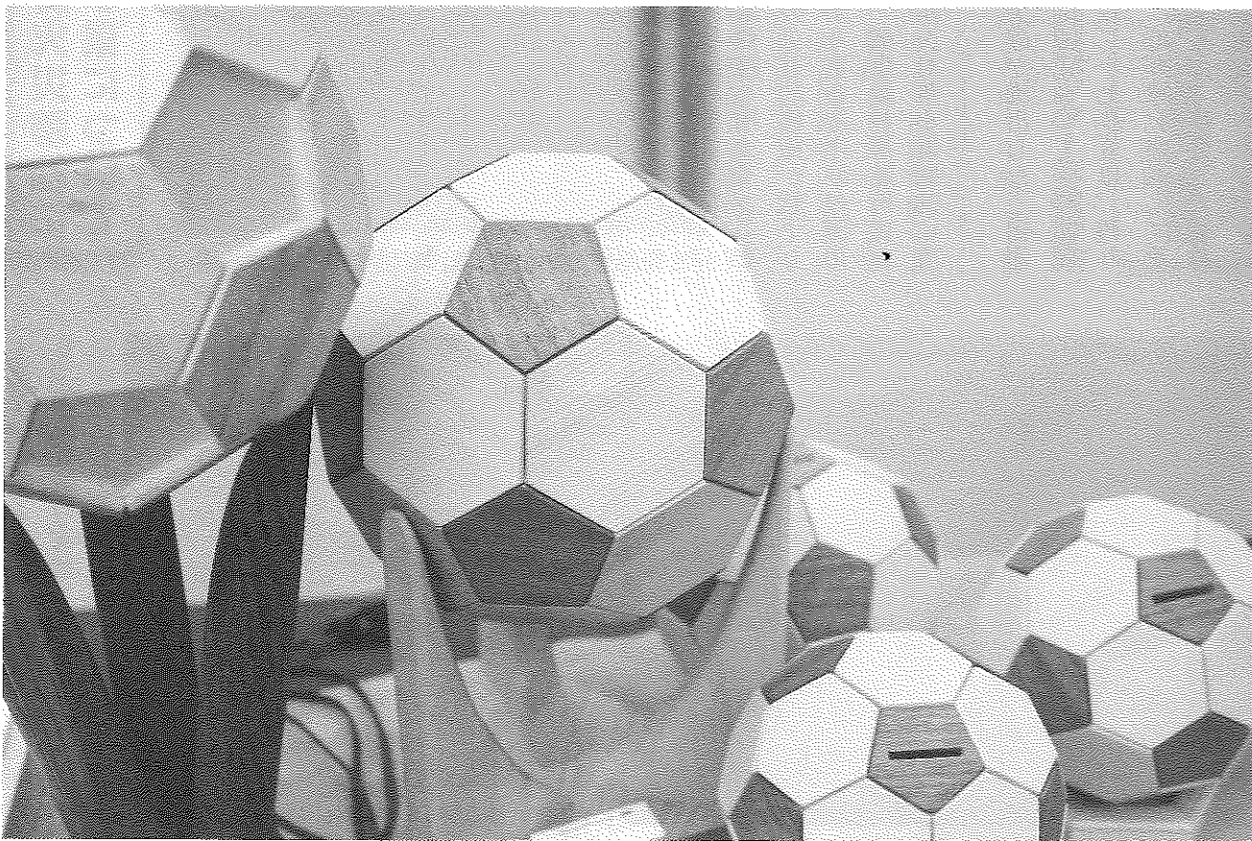


林業ぐんま



ぐんまウッドクラフト展「サッカーボールの貯金箱」 ウッドクラフト作家協会 諸石隆正

林政情報	桐生市の林野火災跡地における 治山事業について.....1
普及コーナー	森林ボランティア活動の推進.....2
各地のたより	ぐんま林業学校.....3
(西 部)	親と子の木工広場開催.....5
(藤 岡)	上野村木質バイオマス 発電施設の稼働.....5
(富 岡)	椎茸活着・ホタテ場診断について (吾 妻) 親と子の木工広場開催.....5
(利根沼田)	「造林事業現地研修会」を開催 (桐 生) 森林整備ボランティアで汗流す (森 林) 森林整備の担い手を育成.....5
(渋 川)	ニホンジカの生態について学ぼう 森の談話室.....10
森林は緑の「社会資本」	下仁田町副町長 吉弘拓生さん.....11
地域を担う人	田村洋平さん 黒岩正広さん.....11
相業宗一さん	林業試験場から.....12
竹の生理と荒廃した竹林の整備について	トピックス.....12
ぐんまウッドクラフト展IN群馬県庁	平成27年度教育情報講習会を開催.....13
平成27年度教育情報講習会を開催.....14	森林・林業を支え、みどり豊かな 郷土群馬づくりに貢献する.....15

目次



岩井建設株式会社

富岡市神農原70-2 TEL.0274-63-6527
http://www.iwai-site.co.jp

神戸土木株式会社

代表取締役 神戸康宏

〒370-2603 群馬県甘楽郡下仁田町馬山3709-1
TEL 0274-82-3335 FAX 0274-82-6023
URL : http://www.kanbe.co.jp



緑の募金で
緑豊かなふるさとぐんま

公益社団法人 群馬県緑化推進委員会

前橋市大手町1-10-7 群馬県公社総合ビル内
☎ 027(280)6257
URL : http://www.g-sinrin.jp/

～ 人づくりから森林づくりまで
群馬の山を守り、確かな技術で地域に貢献する～

一般財団法人 群馬県森林・緑整備基金

〒371-0847 前橋市大友町 1-18-7 (群馬県庁大友町庁舎内)
TEL 027-212-6295 FAX 027-212-6296

発行責任者 新井雅博
印刷 杉浦印刷株式会社

ひとりごと 今年の夏も恐ろしい暑さが続いたかと思うと、一転して梅雨のような雨続き。台風も一段とスケールアップしています。隣県での想像を絶する集中豪雨など、異常気象の影響が身近に迫っています。全国各地の火山も活性化。火山でなく経済の活性化、林業の活性化に期待するところですよ。

桐生市の林野火災跡地における治山事業について

平成二十六年四月十五日に桐生市菱町において、県内最大規模となる山林火災が発生しました。五月二日に鎮火となるまでに、桐生市内の百九十一ヘクタール、栃木県足利市の七十二ヘクタール、合計二百六十三ヘクタールの森林が被害を受けました。現在、桐生市を始め、関係機関により森林の復旧対策や防災対策が進められているところです。

桐生の被災地では、昨年七月に時間雨量三十八ミリメートルの豪雨があり、三つの渓流から作業道へ土砂が流出しました。幸いにも大事には至りませんでした。林内の下草は消滅し、被災した立木も伐採し撤去せざるを得ない状況で、保安林の公益的機能が低下しており、今後の豪雨により更なる土砂の流出が懸念されたことから、桐生森林事務所において、治山事業による防災対策を計画的に実施することとしました。

平成二十六年度は、土砂が流出した三渓流のうち緊急性の高い二渓流において、谷止工を一基ずつ設置し、平成二十七年度は、残りの一渓流に谷止工二基、昨年度に継続して更に一基ずつ設置するとともに、焼失した森林を復旧するために苗木を植栽する予定です。



荒廃が進むB沢

次年度以降も保安林機能の早期回復を図り、下流地域の安全・安心を確保するため、



H26年度に完成した谷止工



流出土砂が堆積したC沢

全体計画に基づいて、施設整備や森林整備を着実に実施していきます。



H27年度施工中の谷止工(奥はH26年度完成)

(森林保全課)

森林ボランティア活動の推進

○森林ボランティア支援センター本格稼働

森林整備への関心が高まる中、平成二十七年四月に、「森林ボランティア支援センター」が憩の森・森林学習センターで本格稼働しました。同センターでは、専門ホームページによる情報の収集・発信や刈払機取扱いなどの安全指導、森林整備作業器具の貸出しなど、森林ボランティア活動を一体的に支援し、県民の森林ボランティア活動への参加の促進や森林ボランティア団体、企業等への活動支援を行い、県民全体で支える森づくりを推進しています。



森林ボランティア団体対象の刈払機安全講習会

詳しくは、森林ボランティア支援センターホームページ「モリノワ」(<http://www.morinowapref.gunma.jp>)をご覧ください。

○森林ボランティア体験会を開催

同センターでは、森林ボランティア活動を始めてみたい、始めてみようと考えている方々を対象に憩の森・森林学習センターにて「森林ボランティア体験会」を開催しています。



森林ボランティア体験会での下刈り体験

平成二十七年八月二十三日(日)に実施した第一回の体験会では約二十名の方が下刈作業を経験し、森林・林業や森林ボランティアについて講義を受けていただきました。また、森林ボランティア団体の方からの「団体紹介」コーナーもありました。第二回は平成二十七年十月三日(土)、第三回は平成二十七年十一月十四日(土)に実施しますので、PRをお願いいたします。

企業参加の森づくり

県では、社会貢献として森林整備ボランティア活動を実施しようとする企業・団体等と、自らの手ではなかなか整備できない森林所有者の間を、県が仲介者となって森林整備協定を結び、群馬県の森林を多くの手で守り育てる取り組みを行っています。

平成二十七年五月には太田市に工場を持つ味の素ゼネラルフーズ株式会社と前橋市の森林所有者2名と県で森林整備協定を締結しました。

この取り組みにより、平成二十七年五月末時点で三十一の協定が締結されています。



「フレンディの森」森づくり宣言書調印式

ぐんま林業学校 (森林施業プランナー養成研修)

【背景及び県の取り組み】

本県の森林は、県土面積の3分の2を占め、利根川上流域に位置しており、木材の生産をはじめ、国土の保全や首都圏の水源として重要な役割を担っています。また、森林を将来にわたって大切に守り、次世代に引き継いでいくためには、適切な計画の策定と効率的で低コストな施業の提案、分析ができる林業技術者を育成していくことが重要です。

そこで本県では、森林管理の中心となる林業技術者を育成するため、群馬県森林・林業基本計画に基づく「森林施業プランナーの養成」に着手し、平成24年度に創設された「認定森林施業プランナー制度（森林施業プランナー協会）」を活用して、基礎的知識を学ぶ座学研修と現場感覚を養うための実践研修に取り組んでいます。

【平成27年度の研修概要】

○全体基礎研修（7月23日）

研修初日は群馬県庁にて開講式からスタートしました。研修に先立ち受講17名が自己紹介を行いました。研修に対する意気込みを

感じました。

研修内容は次のとおりです。

・提案型集約化施業の意義と森林施業プランナーの役割

（講師：群馬県森林組合連合会 高橋氏）

・施業集約化の取組事例

（講師：吾妻森林組合 入澤氏）

・森林施業技術「間伐の必要性と目標林型、効率的な間伐作業システム等」

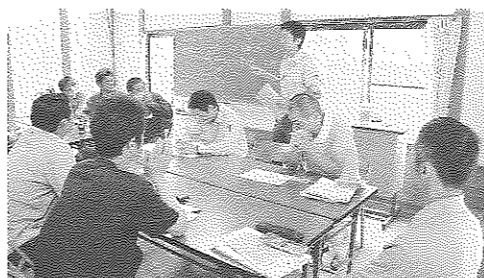
（講師：林業振興課 深澤氏）

・森林経営計画概論

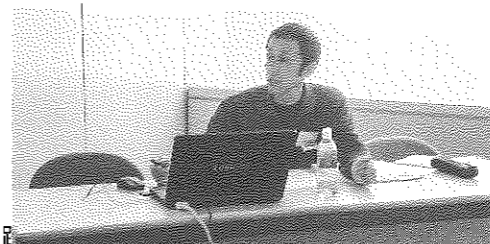
（講師：林政課 安蔵氏）

・班別研修のポイント

（講師：多野東部森林組合 浦部氏）



浦部講師



入澤講師

○班別実践研修（8月6日～10日）

研修2日目と3日目は、群馬県富岡合同庁舎と富岡市にある大桁原有林（調査区域3ヶ所）で実施しました。研修は、森林施業プランナーの目的や路網計画（道づくり）を講義形式で行い、その後班別に現地踏査及び路網線形、縦断勾配の検討、円形プロット調査による成立本数の把握、伐倒木（残存木）の調査を行いました。

浦部講師からは「現地調査を行う上で重要なのは現場のサインを見逃さない」という助言がありました。

・森林施業プランの目的と作成

（講師：群馬県森林組合連合会 高橋氏）

・路網計画と現地調査方法

（講師：多野東部森林組合 浦部氏）

・現地踏査



路網の検討(石塚講師:中央)



路網の検討(河合講師:左2番目)



班別検討(新井講師:左)

最終日の4日目は群馬県庁にて、森林施業プランの作成演習と現地踏査結果をとりまとめる班別発表を行いました。

施業プランの演習では、工程別単価を設定する上で基礎となる機械経費単価の算定方法について、講師の高橋氏から丁寧な説明が行われました。

・森林施業プランの作成と演習

（講師：群馬県森林組合連合会 高橋氏）



プランの演習(高橋講師)

・現地踏査により決定した施業方針や路網計画、森林施業プラン（提案書）の班別発表

（講師：多野東部森林組合

浦部氏ほか5名）

【研修を振り返って】

今回の研修では、修了者17名のうち総務系担当者数名が受講されました。提案型集約化施業では工程別単価の設定やコスト分析が重要となりますが、データの集計や解析等を行う上で、総務系担当者との連携を考えている事業体が見受けられました。

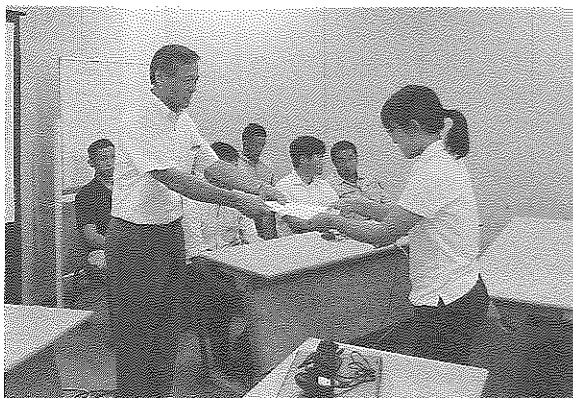
本研修が修了したことで県内の森林施業プ

ランナー養成者数は101名（うち女性3名）となり、森林・林業基本計画の目標（100名）を達成しましたが、平成26年度末現在で県内の認定森林施業プランナーは13名と他県に比べて少ない状況です。

このため、県では養成した認定森林施業プランナー候補者の実践的な取り組みを促進し、認定プランナーの更なる確保に取り組んでいきます。

最後に、研修講師を引き受けていただいた6名の講師の皆さんには、研修資料の作成から、丁寧かつ分かりやすい講義、現場指導を行っていただき感謝申し上げます。

（林業振興課）

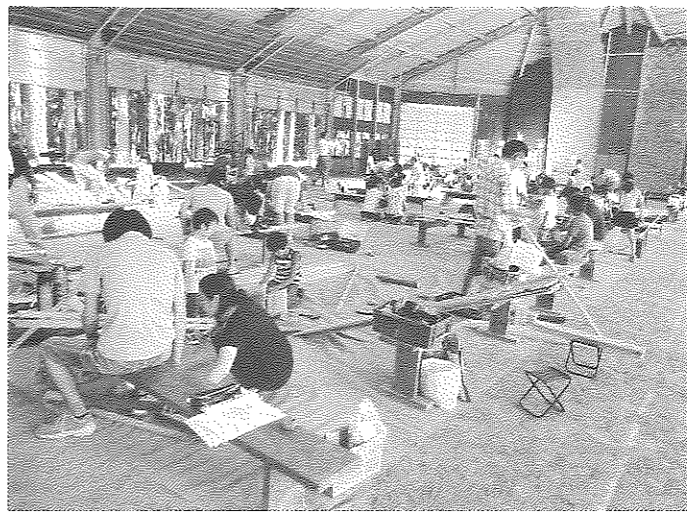


修了式

各地の便り

親子の木工広場が 開催される

今年度も恒例の「親子の木工広場」が（倉測会場）と（高崎会場）の2箇所で開催されました。倉測会場は倉測木材組合・群馬県建築業組合連合会倉測支部の主催で、7月26日（日）に午前9時から高崎市倉測町水沼の「クラインガルテン交流館」を会場に開催されました。当日は、親子32組83名と多くの参加者がありました。参加者は暑い中汗を流して、親子で協力して立派な作品を仕上げていました。



倉測会場の様子

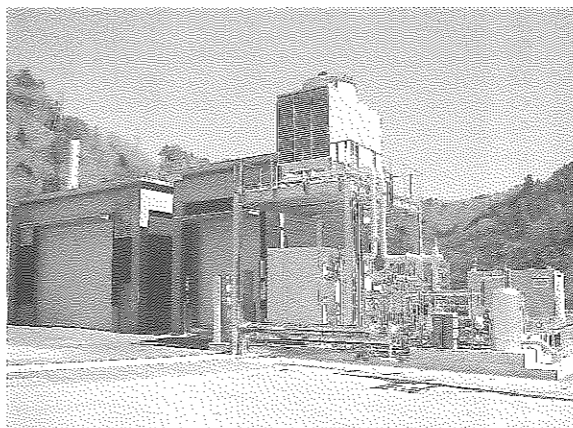
高崎会場は高崎材木商組合の主催で、8月1日（土）に午前8時30分から高崎市飯塚町の「榎吉貞 高崎市場」を会場に開催されました。当日は、親子約120組270名と大変多くの参加者で賑わいました。こちらも倉測会場同様立派な作品が製作されました。これからもこうしたイベントを通して、木材に触れあい、木材に対する理解がさらに深まり、木材の需要拡大につながることを期待しています。



高崎会場の様子

上野村木質バイオマス 発電施設の稼働

平成27年4月から上野村で木質バイオマス発電施設が稼働し始めました。この施設は上野村が事業主体となり、森林・林業再生基盤づくり交付金事業を利用して導入した、発電能力が180kw/h（1、473kw/年）の小規模発電施設です。発電した電気とその過程で発生する熱量は隣接するきのこセンターへ供給しています。燃料は村内の原木から生産したペレットを用いており、エネルギーの地産地消となっています。ペレットを使用することにより、燃料供給は自動で行うことが出来ます。

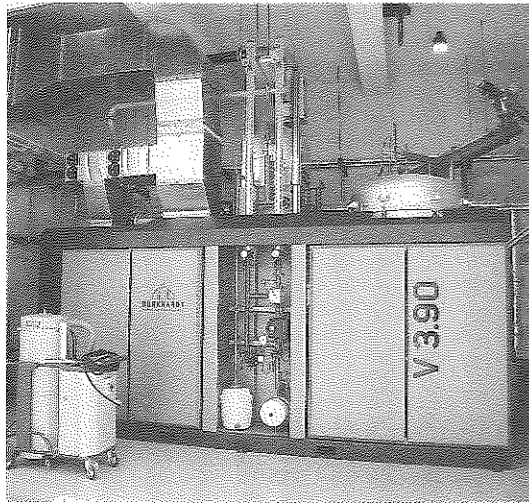


上野村木質バイオマス発電施設

各地の便り

写真のとおり発電施設としてはコンパクトな造りとなっています。その理由は国内では初となるペレットを用いた木質ガス化発電を採用しているためです。木質ガス化発電は、ペレットを加熱して木質ガスを発生させて発電する方式で、小規模発電では発電効率が良く、ヨーロッパで普及している方法です。

上野村は村の資源の一つである森林を活用して村の経済を回しています。素材生産から、木工品、製材、ペレット、きのこ、木炭、そしてエネルギーを生産し、その過程で雇用を生み出しています。上野村森林組合をはじめ、村内の素材生産業者等も一丸となって、協力しており、林業による地域活性化の試みとして全国から注目を集めています。



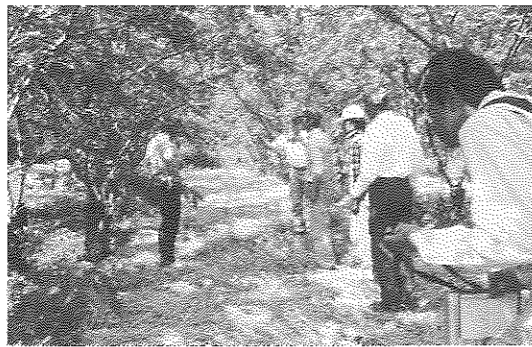
ガス化ユニット

（藤岡森林事務所通信員）

椎茸活着・ホダ場 診断について

甘楽富岡地区は原木椎茸の生産が非常に盛んであり、現在でもこだわりのある原木栽培が行われております。

椎茸活着・ホダ場診断は生産者・農協・種菌メーカー、県・林業試験場が一堂に会し、原木のホダ化具合と今後の管理方法について診断するもので、本年は五月二十七日の下仁田地区・富岡南部地区を皮切りに、妙義・野上・黒岩・西牧地区の計六地区で診断を行いました。



桑園を利用した原木椎茸の場

活着・ホダ場診断の着目点は、天候に左右されがちな時期を経て、しいたけ菌が活着する状況を確認していただくことにより、本年の傾向としては、原木の入荷は順調で春の天候は若干過乾きみでしたが、全ての地

方での診断

区でおおむね良好となり、出来のよいホダ木を得られるとのことでした。

以前は四月下旬に活着診断、六月上旬にホダ場診断を行っていましたが、菌床栽培の普及にあわせて診断内容も見直し、五月下旬に実施しています。また、原木の調達も年々厳しくなり、種菌等の資材価格も上昇したことから、夏場を中心とした販売単価の厳しい状況を踏まえ、他の作目との複合経営が増えている状況があります。

日本食ブームにより、伝統的な食材として見直されている原木椎茸。そして、何より椎茸栽培に重要なホダ木づくりに取り組んでいる生産者。今後原木椎茸の一大産地であるために、私たち林業普及指導員も生産現場に出向き、生産者とともに切磋琢磨しながら良



コナラ原木に広がるしいたけ菌の紋様

いホダ木づくりと収穫の喜びを分かち合うことを目指します。

（富岡森林事務所通信員）

各地の便り

親子の木工広場を開催

夏休み期間中の平成二十七年八月二日、中之条町折田「花の駅美野原」の芝生広場を会場に、吾妻郡内の小学生とその保護者を対象とした「親子の木工広場」が、吾妻木材組合、吾妻郡林業振興協会、吾妻環境森林事務所の共催で開催されました。

当日は天候にも恵まれ、吾妻郡内の小学生とその保護者合わせて二六組七五名の参加があり、各人が前もって考えてきた作品づくりに奮闘していました。

今年は、縁に囲まれたところで行ったので、



会場風景

日差しが強いときは一時木陰に入り休憩をしたりして、日中の暑い時にも関わらず、一人の病人やケガ人をださず行うことができた。



作品が出来ました



仕上げ作業中

参加した子供たちは、お父さんやお母さん等の保護者と一緒に工作ができ、ノコギリで木を切り、釘を打ち、木の加工のしやすさと造る楽しさを実感しているようでした。

工作時間が午前中のみということで時間の制約もあったため、作品が時間内で完成できた人や作成途中の人もいましたが、各々の作品を大切に持ち帰って行きました。

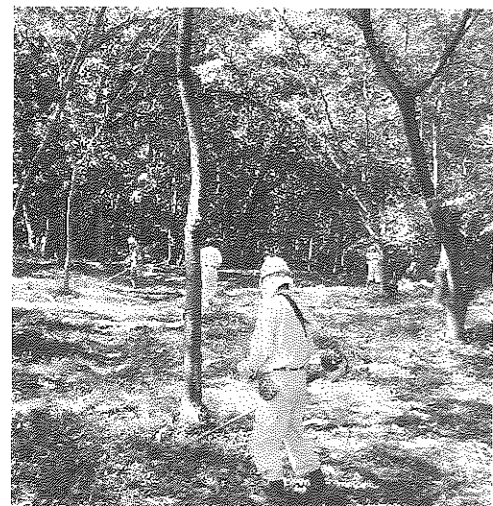
(吾妻環境森林事務所通信員)

森林整備ボランティアで汗流す

7月14日(火)群馬県森林土木建設協会(山藤浩一会長)により、みどり市笠懸町の岩宿遺跡の近くにある琴平山遊歩道沿いで森林整備ボランティアによる作業を実施しました。

群馬県森林土木建設協会では、平成24年から、桐生市並びのみどり市と森林整備活動の協定を結び、毎年7月にみどり市、12月に桐生市で森林整備ボランティアとして、下刈りや倒木処理等の作業を行っています。

当日は、岩宿遺跡駐車場に同協会桐生地区の会員やみどり市、桐生森林事務所から42名が参加し、2班に分かれて山頂付近と遊歩道の登り口から下刈り等の作業を開始しました。



参加者による下刈りの様子

「造林事業現地研修会」を開催 森林整備の担い手を育成

群馬県では「群馬県森林・林業基本計画」に基づき、平成三十一年における素材生産量を四十万立米とすることを目指して各種の施策を展開していますが、素材生産の担い手となる森林組合・林業事業者に対しては、小規模な森林所有者の林地を取りまとめて団地化し、森林経営計画を作成し低コストの利用間伐を実施する提案型集約化施策の推進を指導しています。利根沼田地区素材生産業者で構成される利根沼田地区素材生産組合では、



会場風景

当日は、梅雨の晴れ間の好天気で、作業には厳しい暑さとなりましたが、参加者は、暑さや飛んでくる蚊にも負けずに、刈払い機や手鎌を持ち、笹などが茂る里山をきれいに整備し、気持ち良い汗を流しました。

開会式では、みどり市長から「夏休みになると地元の小学生がこの山に入って自由研究や虫取り等が行われ、地元住民の憩いの場であるため、この整備は非常に重要であり、市民と子供達に代わって感謝を申し上げます。」と謝意を表されました。また、下刈り作業中にも、地元の人達が遊歩道を登っており、作業に対し、「ご苦労様」と感謝の言葉をかけて下さり、参加者は暑さも忘れ、森林整備ボランティアへの意欲が向上されました。



実施前の記念撮影(汗を流す前に)

(桐生森林事務所通信員)



作業道開設の注意点を解説

平成二十六年年度より森林経営計画を作成し、造林補助事業を活用した施業集約化の取り組みを始めたところ

ですが、体制強化の一環として組合員を対象とした現地研修会を七月十七日(金)に開催しました。研修会には9事業体から13名の参加があり、森林経営計画を策定し作業道を開設計画を策定した施業地において、利根沼田環境森林事務所の普及指導員が講師となり、造林補助事業の申請・検査に係る施業管理のポイントや、作業道開設における線形管理の選定・開設作業における注意点等について解説を行いました。参加者からは「実際の現場での説明は分かりやすい」と好評で、各自の施業地についての具体的な質問や活発な意見もありました。今後も定期的に研修会を実施し、地元林業の担い手育成の一助になることを期待しています。

(利根沼田環境森林事務所通信員)

各地の便り

ニホンジカの生態について

シカによる造林木への被害が年々増加しています。シカはほとんど全ての植物を食べるほか、窮すれば落ち葉まで食べます。林床植生がなくなり表土流失や水源かん養機能にも影響を及ぼすと懸念されています。

県では森林林業基本計画を定め、素材生産量40万m³を目標に各種政策を実施しており、今後皆伐が進むと獣害対策が必須となります。

獣害対策としての防護柵は、数ha単位の植林地を囲うゾーンディフェンスが主流ですが、a単位程度のパッチディフェンスも有効とされています。ゾーンディフェンスは外周を囲むため、資材費や設置手間が少なく経済的な反面、一か所が破損すれば、全ての造林地が被害に遭う可能性があります。

対してパッチディフェンスは、造林地を小分けして小面積を囲うため、資材費や手間が多く費用が高みですが、一か所被災してもそのパッチだけの被害で済みます。この中間が、シカの通り道を確保したha単位程度を囲むブロックディフェンスという考え方です。

平成26年度から実施しているぐんま緑の県民基金事業で、松くい虫被害林の再生事業を前橋市金丸町地内で実施しています。

森の談話室

森林は緑の「社会資本」

下仁田町副町長 吉弘 拓生さん

林業白書にこの言葉が使われたのは平成18年、「育てる林業」から「活かす林業」へ進化した年であると思います。

当時ラジオ局DJを務めていた私。実家が製材業を営んでおり、森林・林業への想いは人一倍強く、取材先も山間地が多かったことを記憶しています。「観光・健康・環境の視点から新しい森の活用の可能性にチャレンジしたい」と、現場に近い森林組合で働き現場を駆け回りました。

その時出会ったのが「森林セラピー構想」です。人口200万人の福岡都市圏から1時間の交通アクセスを活かすにはこれだと思いい、浮羽森林組合、地元代表者、商工会、JA、観光協会、うきは市役所で組織する森林セラピー推進協議会を設立。平成21年4月のオープン以降、それまで機械の為の道だった作業道、作業路に年間1万2千人の「観光客」が癒しを求めてやってきました。

平日は林業機械が、休日は人が歩く森林セラピーロードは新しい命が吹き込まれたように周辺森林も生き生きと再生していききました。何よりも、周辺に住む住民らも協力を得

赤城山周辺ではシカによる造林木被害が増加しており、獣害対策としてブロックディフェンスを導入しました。

施工に先立ち、シカの生態や獣害防止柵の設置方法等の知識と技術を深めるため、森林事務所職員、施工管理する森林組合の技術員、市町村担当者を対象に、林業試験場の研究員を講師に招き「ニホンジカの生態と獣害防止対策」について学習会を実施し、18人が参加しました。



坂庭主任研究員から「ニホンジカの生態・行動について」講義いただきました。

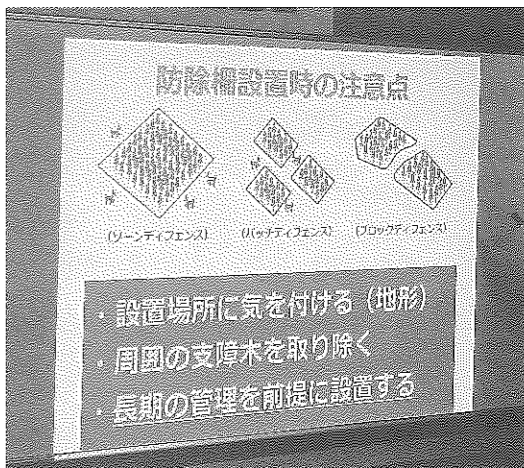
好みの植物はあるが、窮すれば何でも食べる。意外と行動範囲が広いが、定住型もいる。餌に対する嗜好性など、事例を示して非常に



「週末は森林で過ごそう(うきは市の森林セラピー)」

て、弁当を商品化。たまたまお客様として参加していたJR九州の職員の目に留まり「駅弁化」にも成功。

木を切ってお金に換える林業と同時に、間伐した美しい森を歩いて観光と健康にお金を使うという両輪が成立したのです。今では企業、団体、教職員等の健康教室やCSR活動のフィールドとしても活用されています。群馬県は東京圏からのアクセスが強み。ソ



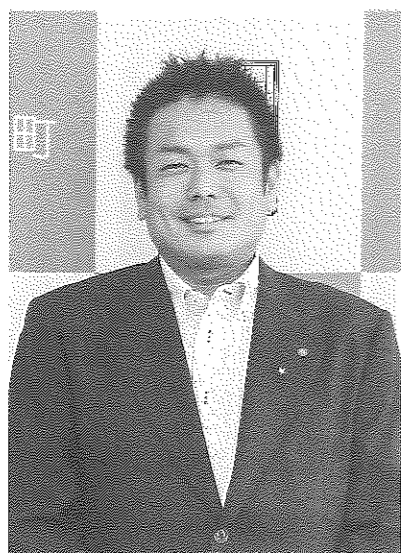
わかりやすく説明いただきました。片平独立研究員からは、県内各所での獣害防止柵の設置事例、地形・自然現象による罹災、獣による破壊事例などから、実際に施工する際の注意点や、設置後の管理の重要性を教授いただきました。

生態や防護対策についてはまだ不明な点が多く、ケーススタディを積み重ね最善の対策を組み立てていきたい。農業では、電柵等設置したのに罹災した場合は、「なぜ、きちんと管理しなかった?」と、人災であると意識している。林業でも、設置後の管理に重点を置くような意識改革や行政施策が必要だ、と話される坂庭主任研究員の言葉が耳に残りました。

(渋川森林事務所通信員)

フト面から支える林業の在り方も推進していきたいと考えています。

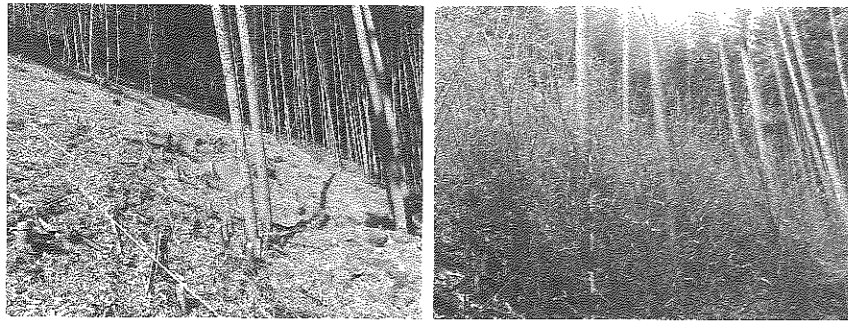
よしひろ・たくお(33)
1981年、福岡市生まれ。九州産業大学在学中の2000年にラジオアナウンサーとしてデビュー。浮羽森林組合からうきは市に向。その後市職員となって観光振興や特産品のブランド化を手がけた。総務省地域力創造アドバイザー。平成27年4月、国をあげての「地方創生」の波が起きる中、下仁田町活性化のために福岡県うきは市から下仁田町の副町長として就任。



竹の生理と荒廃した竹林の整備について

管理放棄された竹林は、生きていた竹の間に枯れた竹が倒れて散乱し、人が立ち入ることができないような様相となります。このように荒廃した竹林では、野生鳥獣の生息環境となること、周辺造林地・耕作地への竹の侵入、景観の悪化、公益的機能の低下といった問題が生じており、整備に頭を悩ませている方も多いと思います。

さて、皆さんは竹林の構造をご存知でしょうか。タケ類の地上部にみられる一本一本の立竹(稈)は地下茎でつながっています。地下茎の繁殖力はとても強く、稈を伐採しても地下茎に残された養分を利用して、芽子(タケノコの子ども)が成長し、次の発筍期をすぎると矮性化した竹が同じ場所に再生



竹林皆伐直後(左:3月)と7月(右)の様子

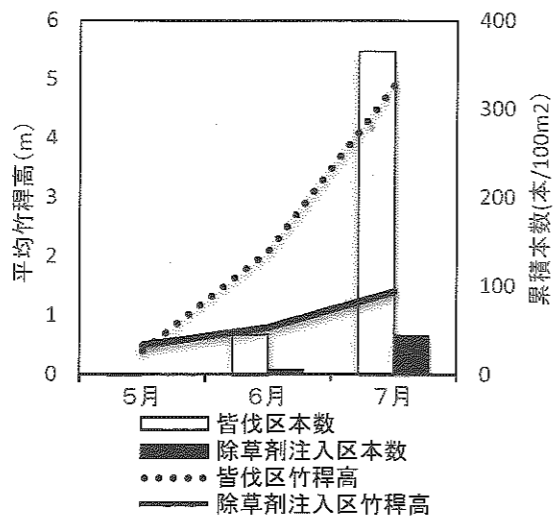
してしまいます(写真)。

一般的に伐採により竹林をなくす方法は、三〜五年継続する必要があると報告されていますので、毎年新竹の刈り払いを怠らないことが大切です。

続いて、伐採処理の季節について考えてみましょう。県内に多く分布するマダケ林を駆除する場合には新稈が伸びきって新葉を展開する頃(七月下旬〜八月下旬)がよく、皆伐することで養分貯蔵を阻止するねらいがあります。冬の伐採は含水率の低下する時期であるため、材の利用と竹林の維持を考慮すると適しています。

竹林をなくすもうひとつの方法として薬剤処理があり、複数の除草剤が農薬登録適用拡大されています。例えば、アミノ酸系除草剤(商品名 ラウンドアップ)は竹稈にドリルで穴を開け、注入する液剤です。タケのみを枯らして土壌では分解される成分のため、安全性が高いことで知られています。塩素酸塩粒剤(商品名 クロレートS)は、地面に散布することで土壌に浸透して地下茎から吸収されるタイプで、処理労力が少ないという利点があります。ただし、林床植生を非選択的に枯らすので植生を残したい場合には向いていません。

両除草剤とも新竹の刈り払い作業を大幅に軽減するため効果的ですが、堅い枯れ竹が残

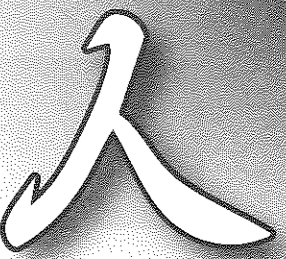


竹林皆伐後の新竹発生本数と竹稈高の推移

近年は、竹林整備を対象とした助成制度があり、ぐんま緑の県民税事業にもメニューがあります。林業試験場では、こうした事業や竹林整備に関心のある方の一助となるよう、整備手法のマニュアル化に向けて伐採手法や除草剤の新たな利用法を調査研究しています。

(林業試験場 森林科学係)

地域を担う



赤城南麓森林組合

田村 洋平

一 趣味
ドライブ・お酒(飲めないが宴会が好き)

二 今後の抱負
地元赤城山はマツ枯れや荒廃林が多く他の地域とは違った作業内容が多いためまごつく事も多いですが、様々な技術習得ができるので日々充実しております。今後は作業の中核となれる様頑張りたいと思います。

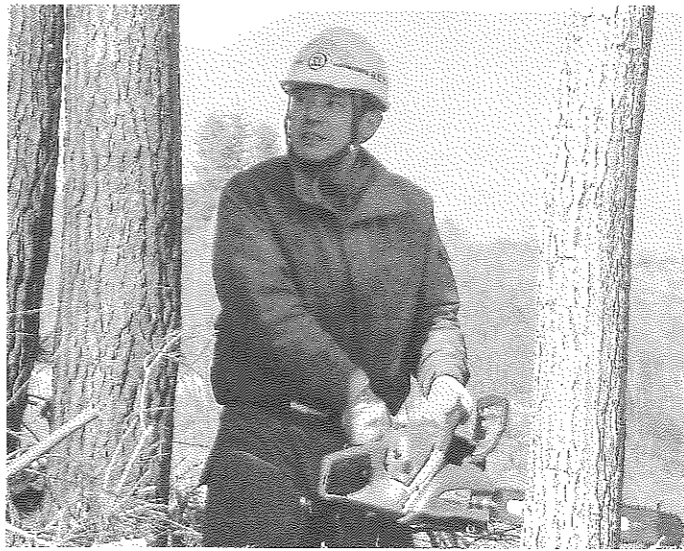


立石木材株式会社

黒岩 正広

一 趣味
釣り

二 今後の抱負
研修で勉強したことを生かし、安全第一。無災害で働いていけるよう努力する。



桐生広域森林組合

相葉 宗一

一 趣味
バドミントン

二 今後の抱負
FW研修3年間で学んだことを活かし、まずは安全第一で怪我のないよう、これからも頑張っていきたいと思っています。



ぐんまウッドクラフト展 IN 群馬県庁

この展示会は、県民の方が木材に直接触れ、木材利用の大切さについて考えてもらうことを目的に、平成27年7月15日（水）から7月20日（月）の6日間にわたり、群馬県庁1階県民ホールで開催しました。今年度は、「暮らしと木材」をテーマに、「遊ぶ」、「使う」、「学ぶ」という三つのコンセプトに沿って、県内で活動するウッドクラフト作家の作品の展示・販売を行いました。また、今年度は、群馬ウッドクラフト作家協会の創立20周年を記念し、赤城山に大きな栗の原生林があるなど、古くから群馬県と関わりのある「栗」を題材にした作品や説明パネルの特別展示を行いました。



「遊ぶ」の木工広場、木の玉プール

◆「遊ぶ」

子どもたちに遊びを通じて木の良さを感じてもらうため、木材の端材を使って工作体験ができる木工広場、木製ボールが詰まった木の玉プールを用意しました。木工広場では、子どもの持つ自由な発想から生まれる作品にウッドクラフト作家の方も感心していました。また、木の玉プールでは、小さな子どもも安心して遊べるため、子ども連れのご家族に大変好評でした。

◆「使う」

身近な木材利用の方法を提案するため、「和」「洋」の生活空間を演出した展示スペースに「栗」の作品を展示しました。「和」では、畳を敷き、そこに木製品を置くことで、日本人になじみのある、落ち着いた雰囲気になっていました。「洋」では、洋間にも木材を活用できることを示し、ゆとりある空間と木のあたたかさを演出しました。

◆「学ぶ」

木材利用の大切さや木材が人に与える効果について知ってもらうため、木材の利用方法、



「使う」の「和」のスペース

(林業振興課)

地球温暖化、環境保全や木質バイオマスなど木材に関する様々なパネルをはじめ、「栗」と群馬県の関わりや「栗」の木の特徴・用途などのパネルを展示しました。

今回の展示会では、作品の購入に加え、来場者が直接木材に触れることが出来るコーナーや木材の素材を活かしたコーナーを多く設けたことで、たくさんの方から木材の良さが理解できたという意見をいただくことが出来ました。今後とも、好評であった木工広場等の開催をおし、多くの方に木材の良さを理解していただけるよう努力してまいります。

平成二十七年 教育情報講習会を開催

平成二十七年七月十四日、渋川市内の塚越屋七兵衛において、森林土木建設業の会員をはじめ関係者約50人が参加し、井田由夫環境森林部副部長、山藤浩一県森林土木建設協会会長を来賓にお迎えして、本年度の教育情報講習会を開催しました。

大手治之副会長の開会宣言に続き、新井雅博会長は「この講習会は、県当局の幹部と親しく勉強し懇談できる数少ない機会であり、本日の講習会がすばらしい会になり、皆様の発展につながるよう祈っております。」と挨拶しました。



新井雅博会長

来賓の井田副部長からは「議会で知事が林業施策を前倒しで推進する答弁をしたように、『群馬県森林・林業基本計画』の見直し

をしている」と現況の説明がありました。

群馬県森林土木建設協会の山藤会長は「群馬県では林業県を目指してさまざまな施策を展開している。我々としてもこれまで培ってきた技術を駆使し、工事を通じて林業振興に貢献していきたい」と述べました。



山藤浩一 森林土木建設協会会長

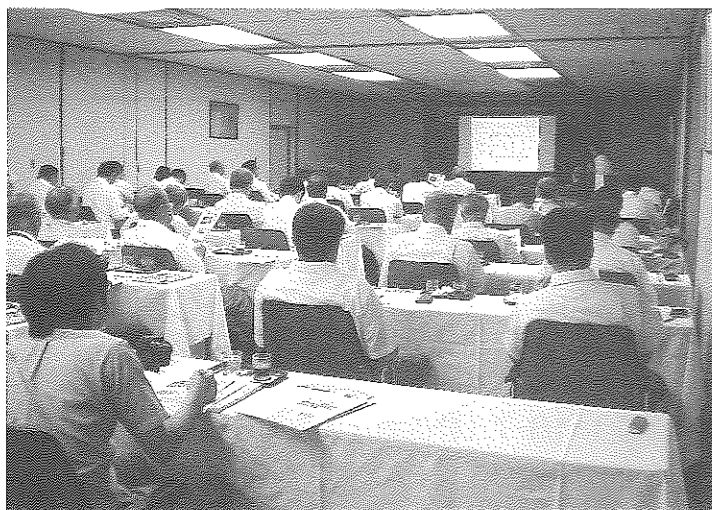
講習会では、金井田俊男林政課長が「林政課の事業について」と題して、環境森林部の予算や「林道事業」、「ぐんま緑の県民基金事業」について説明しました。

続いて、鈴木秀雄森林保全課長から「治山事業をめぐる話題について」と題して、「治山事業予算の状況」や、戦後の荒廃して県土を復興してきた治山事業の様子を貴重な古い

資料を使ってご紹介いただきました。

最後に、山崎信明林業振興課長より「県産材の利用拡大について」と題して、「ぐんまの木で家づくり事業」や工事等に伴う立ち木の伐採等で起こる「林業労働災害の状況」について紹介し、注意喚起がありました。

いずれの講義も大変興味深い内容で、最後まで熱心に耳を傾け聞き入っております。おかげさまで、今年の講習会も大勢の参加をいただき、にぎやかに開催できました。お忙しい中ご講義いただいた講師の方々に改めて感謝申し上げます。



講習会の様子